

# ⑮ 菊づくりで魅せられて

私が中学3年生の時でした。菊を盆栽仕立てにして、幹、茎が根よりも低く垂れ下がっている懸崖菊(けんがいぎく)から発芽しているのを発見したのが最初でした。

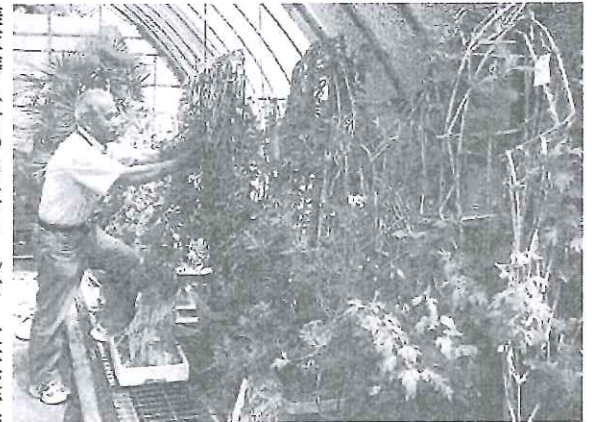
菊作りの知識も無い私でしたが、見よう見まねで育ててみたところ、その秋に大輪の花を咲かせることができました。そのことがきっかけで、高校入学後、趣味としての菊作りに取り組み始めました。

高校3年生の時に地元徳島県鴨島町の菊花の品評会に初出展し初入賞。その後は、地元菊作りには▽大菊▽本仕立て▽懸崖▽盆栽▽干輪花壇など、そしてそれらを網羅した総合花壇があります。品評会ではこの作品を出展するか、悩むこともありますが、鉄道OB会には鎌田義幸さん、岸田貢さん、福本博さんの「菊作り仲間」があり、互いに切磋琢磨(せつさたく)して最高の作品に育て上げています。

## 地域と共生

日本鉄道OB会

「花いっぱい運動」にも参加して、本格的な菊作りに向けた勉強会を開始しました。国鉄入社は鴨島菊友会に入りました。これまでに農林水産大臣賞を10回受賞しています。



自宅のビニールハウスで菊を育てている大塚さん

現在、徳島県の生涯学習講座や徳島県シ

ルバー大で菊作りの指導にも取り組んでいます。(四国鉄道OB会徳島支部・大塚春幸 78)

# ⑯ 青少年の健全育成

平成25年3月、岡山県津山市の北部、グリーンヒルズに「ジャコウアゲハ」を飛ばそうと、約30人の有志で「ジャコウアゲハを育てる津山の会」を立ち上げました。

津山っ子を守り育てる市民の会、学校、保育園関係者など各種団体の代表者にも声をかけて、「人に懐きやすいジャコウアゲハで、多くの人々に癒やしを提供したい」を目的とした組織としました。

## 地域と共生

日本鉄道OB会

毎年4〜5月には地元公園を中心に草刈り作業を行い、ジャコウアゲハが産卵しやすい環境を整えます。サナギとなったジャコウアゲハは5月に孵化(ふか)し、濃黒色の雄、薄茶色の羽根が特長の雌が誕生します。昆虫の生態から学ぶ自然の厳しさ、素晴らし

このジャコウアゲハの存在です。今、スマートフォンなどによるゲームを遊ぶ子どもが多いようですが、昆虫の生きざま、不思議さなどを知らずには、大いなる勉強になります。「生きる」ことを考えるきっかけに、親子の会話が弾む……。子どもたちの情操教育の一環として、これからも活動していきます。(西日本鉄道OB会岡山地方本部津山支部・高橋誠、76)



ジャコウアゲハを育てる津山の会で活動する高橋さん(後列右から2人目)